



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第172号

2017 / 1229

電車バスと自動運転

公共の交通の未来像

■最近ニュースでは、各地での自動運転車の交通実験が目白押しだ。2020年のオリンピックまでに自動運転車が中心になると誤解している人もいる。また自動運転が実現すれば、もう電車バスなどの公共交通は必要なくなるとする人さえある。そこで今回は、人間が移動するという本質を踏まえながら、公共の交通の未来を予測してみよう。

■シルクロード＝電車バス自動車＝スマホ

一見関係のなさそうな文字をイコールで結んでみているが、人と人のコミュニケーション欲求という意味では全く同じ。そもそも人間は個体間のコミュニケーションを密にすることによって文明を築いてきた。「人間」という言葉はまさに本質を突いている。人間は同じほ乳類でも、象やライオンほど大きくもなければ強くもなく、馬やチーターや鹿ほど早く走れるでもなかった。しかし人間は言葉を発明して、相互に密に連携していくことによって、相対的に弱い動物でありながら狩猟を行い、さらには協働によって農業を初めて余剰生産力を生んだ。食べるに困らなくなった人類は、様々なものを作りはじめ、珍しいものを欲しいと思うようになった。好奇心は物々交換による交易を生み、東の漢帝国、西のローマ帝国は交易圏を接するようになってシルクロードが生まれた。

■また人類は言葉を文字に表すことを発明し、積み上げてきた様々なノウハウを時代を超えて継承できるようになった。これもコミュニケーションの進化だと言える。数字で物事を把握するのもある種の発明だ。この延長に貨幣の発明もある。数字と貨幣で、人類は将来を計数的に予測し、効率的に行動出来るようになった。また天体観測や経験則、数値化によって暦が生まれ、季節の概念も生まれた。人類は自然の様々なものを観測して記録し、その中からたくさんの法則を導いていった。多くの書物はそれらの情報を継承するのに大きな役割を果たした。

■さて近代になって、それまでの徒歩中心の世界に、鉄道、自動車、バスが登場した。それまでは公共交通というものはなく、唯一船舶だけが大量に余所へ行く方法だった。馬車の時代には公共交通という概念はまだなかったが、郵便という方法の発明は、定時に物を届けるという概念を生み、その延長に大量に人を運べる鉄道が出来て、飛躍的に人々のコミュニケーションは広がった。アメリカの開発は駅馬車と鉄道によって成し遂げられたと言っても過言ではなからう。

■そのアメリカは広大なため、鉄道だけでは全土を網羅できなかった。アメリカで自動車が爆発的に普及したのは、そういうきっかけがあったはずだ。その後アメリカは近代のコミュニケーション手段を常に先取りし、国土内だけでなく世界のコミュニケーションをリードして発展した国だ。自動車も映画も飛行機もネットも、アメリカはコミュニケーションが人類の好奇心を満たして一番付加価値が高い事を知っている国家なのではないか。

■さて日本は豊かな水力発電を開発して都市に電車を走らせ、東京など大都市圏を効率的に運用することが出来て戦後復興に成功した。細長い国で平野が少なく、世界の中では珍しく鉄道やバスが民間事業として成立した珍しい国だという事を、もっと我々は知らないといけない。日本では鉄道

NPO 法人公共の交通ラクダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail:info@racda-okayama.org

URL:http://www.racda-okayama.org

RACDA

検索



駅までのバス路線を隅々まで作って、全国的コミュニケーションの拡大に成功した。その後アメリカンドリームである一人一台の自動車保有を目指した。

■自動車は確かに夢の乗りものだ。いつでも何処でも好きなところに行ける。こんな便利な物はない。まさに人間の好奇心の発露を大いに助けた。ところが自動車は空間を利用しすぎるという弱点を持っている。自動車一台が時速50kmで走行する場合、幅2.65mの車線を30mも使ってしまふ事実を多くの人は知らない。図のように、スピードを上げれば上げるほど自動車は空間を消費してしまう。おまけに自動車は自宅などの出発地と職場など到着地の2カ所の駐車場を必要とする。それも駐車スペースの何倍もの駐車場内誘導路を必要とする。これは人が好奇心を満たす都市にとっては、かなり痛い側面を持っている。

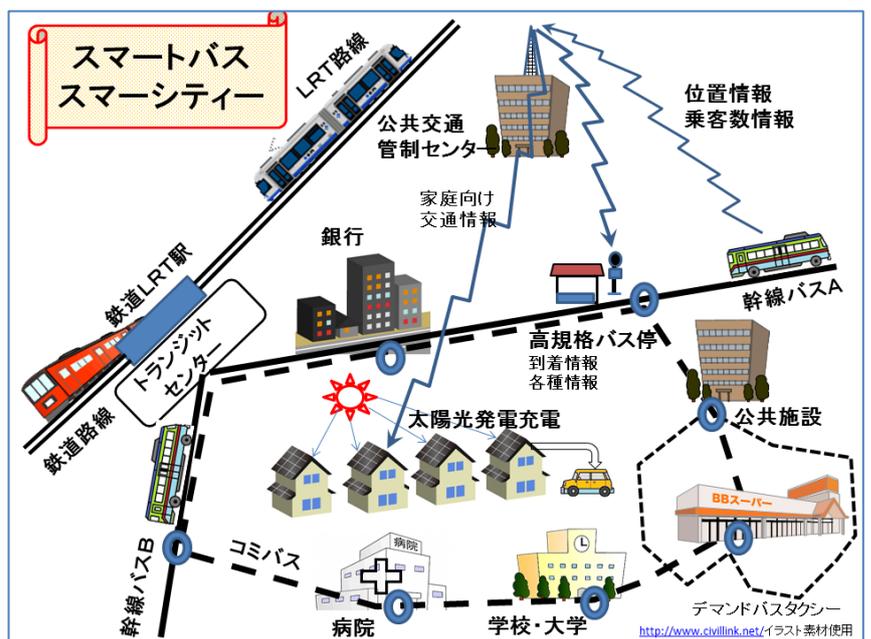
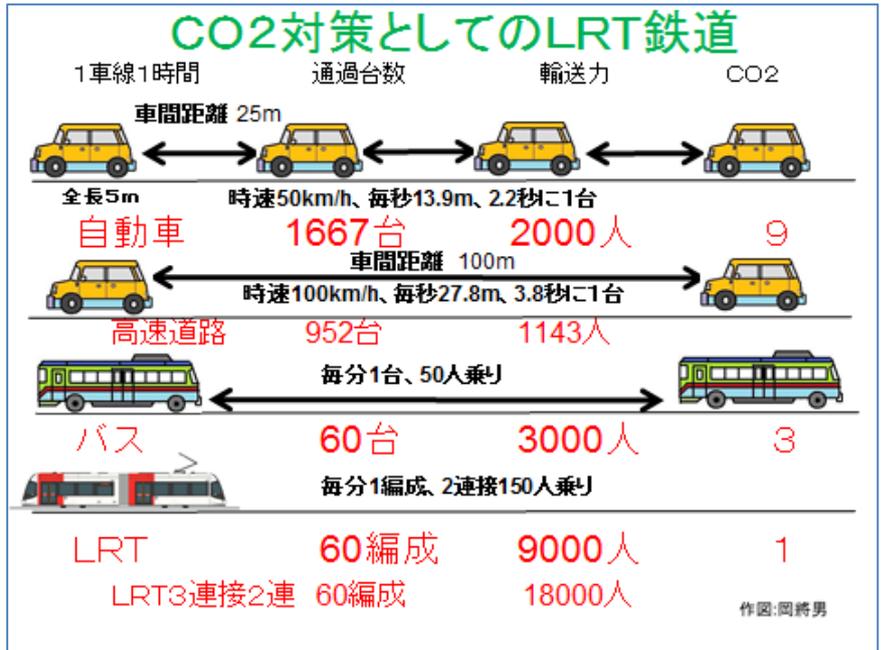
■都市の魅力、それは多くの人々が狭い所に集まり、押しくら饅頭のようにして出来た文化の発熱そのものだと言えよう。そこには付加価値の高い仕事がたくさんある。いま地方創生と言っているが、都市の押しくら饅頭が付加価値の高い雇用を生んでいるとしたら、電車バスによって効率的に人の集まれる東京・大阪などの大都市に、自動車社会の地方都市はかなうはずはない。自動車社会の典型的ロスアンジェルスを見れば分かるように、都心は道路と駐車場ばかりで希薄になってしまう。今の日本の中小都市は、自動車が滅ぼしている。一方で世界の主要都市では、歩行者空間の拡大が始まっている。都市の魅力は人が集まることだと分った人々が、自動車だけに頼らないまちづくりを始めている。路面電車の活用、バスの再生などもその一環だ。

■最後に。携帯電話やスマホの発明は、いつでも何処でも好きな人とコミュニケーションができる、テレパシーのようなものだ。コミュニケーションツールという意味では、電車バス自動車と同じなのだ。若者達の自動車離れの原因は、よりレベルの高い安価なコミュニケーションツールを得たと言うことで理解できる。アメリカ発のネット、携帯電話の世界は、今やスマホで代表され、産業構造を大きく変えようとしている。

■ここからは私の大胆な予測。

1. 自動車は全て電気自動車になる
2. 完全な自動運転には35年かかる、自動運転実現には、機械が人を轢くことを許す憲法改正さえ必要、1つの移動体に1人の人間はなかなか変更できない、自動運転車でもお酒は飲めない
3. 人口減少で道路の半分は維持できなくなる
4. 都市部ではカーシェアが進んで、自動車は1/3になる
5. 電車バスは究極のカーシェアとして増える、スマホの普及で劇的に利用情報が増えて便利出来る

さて、どうなるか (岡将男)



<http://www.civillink.net/>イラスト素材使用